

高齢者のための 「聞こえのセルフチェック」

あなたの聞こえは大丈夫ですか？

聴力は年齢とともに衰え、60代後半では3人に1人が加齢性の難聴とも言われています。聴力の低下はゆっくりと進むため、自分では自覚がない方もいます。難聴は、認知症の危険因子の1つとも言われ、早めに発見することで、聞こえを改善することができます。



まずは、自分の聞こえの状態をチェックしてみましょう

- 会話をしているときに聞き返すことがよくある。
- 後ろから呼びかけられると気づかないことがある。
- 聞き間違いが多い。
- 話し声が大きいと言われる。
- 見えないところからの車の接近に気づかない。
- 電子レンジの「チン」という音やドアのチャイムの音が聞こえにくい。
- 耳鳴りがある。

- 0個 現在の聞こえに問題はなさそうです。少しでも聞こえに不調がある場合には、聴力検診を受けてみましょう。
- 1～2個 実生活でお困りのことがあれば耳鼻咽喉科を受診しましょう。
- 3～4個 耳鼻咽喉科で相談してみましょう。
- 5個以上 早めに耳鼻咽喉科を受診することをお勧めします。

※参考：一般社団法人日本補聴器販売店協会 HP より

難聴（聞こえにくさ）をほうっておくと…

家族や友人との
コミュニケーションが
うまくいかなくなる

テレビや映画の音が
聞き取りにくくなる

車の音などに気がつかず、
外出時に危険も

人と話すことがおっくうになり、
社会との関わりが
減ったりすることも

聞こえのミニ講座



◀ こちらから港区立介護予防総合センターラクっちゃんの言語聴覚士による聞こえの講話動画をご覧ください。

聞こえにくいと思ったらまずは耳鼻咽喉科を受診しましょう

耳の疾患や耳垢が詰まっているなど、加齢以外の理由で聞こえなくなっている場合は、治療や耳の掃除をすると聞こえがよくなる場合もあります。

また、加齢性の難聴の場合も、聴力検査を行い、難聴の程度はどのくらいか、補聴器が必要かを診断してもらうことができます。

港区では、区が指定する耳鼻科（補聴器相談医）を受診することを要件に、補聴器購入費を助成する事業を行っています。詳細は、下記をご覧ください。

補聴器を勧められたら早めに装用を検討しましょう

補聴器を使うにはまだ早すぎる…。このように思っていないですか？そんなことはありません。聞こえにくさを放置すると、仲間同士の会話に支障が出る、外出に不安がある等の影響により、社会参加の機会が減少し、社会的に孤立していく可能性があります。

「聞こえにくい」ことをあきらめず、早めの補聴器装用で、友人との会話や地域活動を楽しみながら、豊かな人生を送りませんか？



家族や友人との
会話もスムーズに

習い事やサークルで
仲間と一緒に生き生きした
社会生活を

外出の時も
しっかり聞こえて安心

※補聴器は高額なものです。消費者トラブルも報告されているため、医師やご家族とよく相談して購入することが大切です。

港区高齢者補聴器購入費助成事業のご案内

【対象者】（以下の①～③の要件すべてを満たす方）

- ① 港区に住所がある60歳以上の人
- ② 区が指定する医療機関（補聴器相談医在籍）の医師が補聴器装用を必要と認めた人
- ③ 聴覚障害による身体障害者手帳を持っていない人

【対象機器】管理医療機器としての補聴器本体（片耳1台分）とその付属品

【助成額】補聴器購入額（上限137,000円）

ただし、住民税課税の人は補聴器購入額の1/2（上限68,500円）

【申請及び相談窓口】 総合支所区民課保健福祉係または高齢者相談センター

《発行》

港区役所 高齢者支援課 在宅支援係 〒105-8511 港区芝公園1-5-25

☎03-3578-2400～2406 FAX03-3578-2419 発行番号 2022008-3721